

令和3年3月20日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
令和3年度 第3回

おはようございます。

コロナがもう当たり前になりました。マスクをしてコロナ対策をするという世界にだんだん入ることであろうと思っています。

お手元に『陽明学のすすめⅧ』をお配りしています。おかげさまで、夏から取り組んでいた中江藤樹がようやく出版出来ました。東京駅の八重洲ブックセンターや丸善には置いてあります。ただ、最近本の販売の仕方が変わりました。以前は配本と言って出版社が問屋に本を送り、そこから全国の書店にどさっと送るわけです。ですから本屋さんが注文しなくても届いていて、本屋さんはそれを本棚に並べて売り、ある程度経って売れなかったものは返本するという仕組みでした。今回、出版社から聞いたことは、先に本屋さんから注文をもらわないと本屋さんに送れないのだそうです。ですから事前にこういう本を販売するので買って下さいという動きをしておかないと、本屋さんに本を送れない仕組みになってしまったそうです。そこで、出版社は本屋さんにチラシを配ったり、新聞に公告を出して宣伝をしなければならないということでした。ちなみに中江藤樹の本は、日経新聞に公告を掲載することにしました。

ついでに申しますと、最近の本の出し方は、出版社は確実に売れると踏んだものしか出版しません。しかも電子書籍が多い。その理由は、以前こういう体裁の単行本だと著者が印税として10%もらい、出版社が3割か4割とります。その次に配本する問屋のマージンが入り、実際に販売する本屋さんの取り分・・・という具合です。電子書籍の場合はこういう形ではありませんから、著者の取り分は70%だそうです。となると10%しか貰えない従来型で出版しようとする人は、なかなかいません。どんどん電子書籍に流れるのは当然のことです。出版業界は根本から変わってしまったと感じました。

これが、今回中江藤樹を出すにあたって覚えたことです。知識で知っているのと、自分が現実に体験するのではまるで変わります。やはり体験は強いなと思います。

切問近思

では、レジュメに参りましょう。最初は論語素読です。本日の論語は、子張篇の6、7で

す。ズームで見ておられる方、会場におられる方もソーシャルディスタンスをとっている
ので、私のあとについて声を出して素読をして下さい。

しか いわ ひろ まな あつ こころざ せつ と ちか おも じん そ うち あ
【四】子夏 曰く、博く学びて篤く 志 し、切に問いて近く思えば、仁 其の中に在り。

子夏が自分の弟子に、仁を求める方法について話しています。「博く学ぶ」とは、横の
知識をどんどん広げていくことです。もちろん主軸になるのは縦の学問、則ち自分自身の
哲学です。

子夏が言うには、広い目線で学び、心の底から知りたいと志を立て、自分の身近で追及
し続けていけば、仁は自ずから分かるものだ。

これは、「切問近思」で世に伝わっている言葉です。レジュメに書いたように、このス
タイルの人は歴史上の人物なら中江藤樹が挙げられます。

中江藤樹について、詳しくはお配りした本を読んで戴ければ宜しいのですが、少しお話
します。

藤樹は小さい時に『大学』という本を読んで、立派な人間になりたいと強く思っ一所
懸命勉強を始めました。藤樹の家は農家でしたが、お祖父さんが武士だったので、藤樹を
跡継ぎにしたいと考え自分の養子にして学問をする環境を与えました。藤樹はその中にど
っぷり浸かって勉強を始めたわけです。ところが一生懸命勉強すればするほど、だんだん
周りからつまはじきされるようになる。今は文武両道という言い方をしますが、その頃は
戦国時代の余韻が漂っている最中ですから、喧嘩の強い子が素晴らしと褒められて、勉強
ばかりする藤樹少年は柔弱だとなるわけです。

藤樹はそれに反発して一所懸命勉強を続けていると、青年になった頃には棘だらけの人
間になっていました。圭角ありで、舌鋒鋭く相手に突っかかる。荒木事件などはその例で
す。ですから本人は苦しくてどうにもならないわけです。はっと気がつけば、自分を育て
てくれたお祖母さんが亡くなり、藤樹が元服してすぐにお祖父さんも亡くなります。やが
て父親も亡くなって、残っているのは母親だけになった。自分が学んでいるのは親孝行し
なさいと強く教える学問ですから、母親を自分の元に迎えて親孝行したいと考え、故郷に
迎えに行きます。しかし、生まれ育った近江から出るつもりはないと断られてしまい、落
胆して帰る船中で喘息の発作を起こします。死に至る業病に取りつかれてしまったわけ
です。

藤樹はその後、27歳の時に辞職願を提出して大津藩を脱藩し、母親の元に帰省します。

そして聖人になりたいという強い志で、毎日毎日、朝起きてから寝るまで聖人になるべく努力に努力を重ねます。だんだんお弟子さんも集まって来るようになります。30歳の時に17歳の久という娘と結婚をしますが、藤樹が懸命に勉強へ打ち込みお弟子さんも沢山増えて来ます。久は藤樹が起きるよりも早くから起き、藤樹が寝るまで起きているような生活をしたので、無理がたたって10年くらいで亡くなってしまいました。

藤樹は41歳で亡くなったわけですが、一生懸命努力して自分を磨き、多くの弟子を育て立派な人物を輩出しました。まさに、「博く学びて篤く志し、切に問いて近く思う」を実践したわけです。ですから晩年には「聖人」という言葉で呼ばれ、亡くなった後は「近江聖人」と言われるようになりました。やがて後世の人が、藤樹の生涯は陽明学そのものではないかということで、「日本陽明学の祖」「日本陽明学の開祖」と言われるようになったのです。

藤樹のように必死になって努力に努力を重ねれば、「聖人」と言われる人物になるのでしょうか、私は聖人になりたいと思っていませんから、とてもそこまではいきません。ただ、日常生活で感じるちょっとした疑問、言葉や事実や現象など、これは何だろうと思ったら調べるという習慣が身に付きました。

例えば、私は最近「副反応」という言葉が気になりました。聞き慣れない言葉だったので調べました。皆さんは副反応という言葉をお聞きになったことはありますか？ 何だろうと思って調べた方はおられますか？・・・お一人おられました。

(田島監事) ウィルス等のワクチンに対しては「副反応」で、それ以外の薬などは「副作用」という使い分けをしているとネットにありました。

・・・有難うございます。ウィルスのワクチン接種をして異常な反応が出た場合を、副反応と言います。私が調べたことを補足致します。

副作用と副反応をいつ頃から変えたかという、1989年に三種混合ワクチンが接種されました。三種混合ワクチンとは、風疹・麻疹・おたふく風邪の三種類を混ぜて作られたものです。その時は国民の義務として接種が進められました。ですから国民は拒否出来ません。それによって多くの副反応が出ました。最初、政府が発表したのは、30万人に1人という数字です。それが10万人に1人になり、5万人に1人になり、最終的に1200人に1人副反応が出るということでした。民間の医療機関が発表したものは、500人に1人という内容でした。

政府が打ちなさいと言って接種した結果、身体に異常が生じて、かなり重い症状の人が出て、各地で訴訟が起きました。そして、政府は負け続けました。その結果、法律に手が

入って、義務から努力義務に変わりました。努力義務ですから、打ちたくない人は打たなくてよい。今のコロナワクチンの接種も、希望する人はどうぞ打って下さいというものです。私は打ちたくないと思っています。

「切問近思」から感じたことをお話しします。

先日、久しぶりに社内の会議で机をバンと叩きました。役員の一人が腕を組んでそっくり返っていたので、無礼であると怒鳴って机を叩きました。後で家内に怒られまして、今はパワハラで問題になるのですね。聞くところ 40 種類くらいの〇〇ハラがあるそうで、もっと穏やかに話をせねばいかんなど反省をしました。

皆様をお願いしたいことは、話を聞く態度です。ズームでご覧になっていると、見えていないと思って肘をついていたり、酷い時には頬杖をついていたりする。しかし他の人の画面には映っていますから、気をつけましょう。ということで、自分の手や足の置く位置を時々意識されるとよろしい。自分では無意識でやっても、相手から見ると、是非また会いたいとか話をしたいと思わなくなります。

自分の身の形を美しくするとは「躰」です。自分で自分の身体に躰をしなければいけません。躰とは人に対してするだけではありません。自分で自分を躰けることが必要です。それから机の下で足を組んでいるのも、意外と分かります。以前、机の上に足を上げて、お客さんが来てもそのまま「やあ、いらっしゃい」と迎える社長の話をしました。机に足を上げていれば誰だっておかしいと思います。でも習慣になってしまった社長はそのままだったのです。人から見られた時に、自分はこう見えるのだなと思ったなら、努力して自分の身を躰けましょう。私もそう努力しています。

先週、元中国大使の方の講演会に行っておきました。始まる前に控室でお話をさせて戴きましたが、なるほどと感じたことが 2 つありました。

一つは、中国はコロナを封じ込めたと言っていますが、それが成功した理由です。皆さんは、昨日の 12 時 15 分に何処にいましたかと聞かれて答えられますか？ 中国では、あなたは何日の何時何分に何処にいて、その時コロナ陽性の人と接触した可能性があるから PCR 検査を受けなさい…と政府から命令が来るわけです。つまり 365 日、24 時間監視されているということです。尚且つ政府に従わなければ捕まるわけです。日本はそういう国ではありません。中国がなぜコロナの封じ込めに成功したのか、疑問が一つ解けました。

もう一つは、昨日も米中の外交トップ会談で非難の応酬をしていましたが、こういう時に中国の高官は強面で相手を強く非難しなければどんな目にあうか骨身に沁みて分かって

いるから、負けられないわけです。以前も申しましたが、中国の女性広報官が就任当初テレビに映っている顔を見ると、目が泳いでいました。この人は腹の中にないことを無理やり喋らされているのだな…と見ていました。最近も、確信犯だから目が泳いでいませんね。

その裏話をお聞きしました。政府が他国に対して広報官の非難が弱いと感じた場合は、高官の所にカルシウムの入った飲み物が送られて来るそうです。ただのエールや激励ではありません。骨を太くして相手を非難する時は徹底的にやりなさい、というメッセージが込められているのだそうです。ですからドリンクが送られた本人は冷や汗もので、必死になって自分の心をそちらに向けなければならないという仕組みです。話をお聞きして、共産党の中身は大変だとつくづく感じました。

コロナワクチン接種を考える

先ほど副反応について申しました。コロナのワクチン接種について判断の三原則で考えます。

まず本質は、コロナが広がった時にニュースで軽く扱えば、それで終わったわけです。ところが大々的に取り上げました。これには何の意図があるのだろうかと考えます。確かにコロナウイルスで人が亡くなっているし、感染者も多い。しかし、あれだけ大々的に取り上げる必要があるのか？ 本音の部分で見れば、先ず製薬メーカーが荒稼ぎ出来る。とすると、製薬メーカーと各国の首脳とどういうつながりがあるのか？ 日本の場合で考えると、菅政権の延命を図るということで製薬メーカーと水面下で何らかの話があったのか？ 実際はどうか分かりませんが、そういうこともあり得ると感じます。いずれにしてもお金が絡んできますから、金儲けの絶好のチャンスだと感じた人がいたはずで、それは製薬メーカーであり政治家であるわけですが、ではいったい誰が一番得をするのか？

・・・これらを詰めていくと見えてくるものがあります。私は本質の部分で、人間は金によって動かされているということが根っこにあると感じます。

歴史で見たらどうか。日本の場合、先ほどお話した1989年の三種混合ワクチンです。それによってワクチン接種の流れが変わって、現在に来ていると思っています。歴史的に見た場合、コロナワクチンは大丈夫なの？ という目でどうしても見ざるを得ません。そうすると本質の部分と繋がって来ます。

政府はいったいコロナをどうやって抑え込むのか。発表はしていませんが、日本政府のやり方をみれば、最初は集団免疫を目指したことは疑いもないと私は思っています。集団免疫で相当の数の人が死ぬかもしれないが、他の疾患で亡くなる人も多い訳だから、そこ

に紛れ込ませればそれほど問題にはならないだろうと各国政府は集団免疫を目指したと思っています。日本も例外ではありません。ということで、本質と同じ視点で見えます。

大局は、それぞれの国はどのような対応をしたかです。イギリスは集団免疫を目指しました。他の国は水際作戦で、いっさいウィルスを入れないということをやりました。しかし根っこには集団免疫があります。大局で見れば、ワクチンをうって集団免疫を獲得する。それが判断の根本に来ていると感じています。

ということで、副反応という言葉から、コロナワクチンの歴史に各国の対応ぶり、各国政府首脳の腹の中まで、だんだん透けて見えたように私は受け止めています。

皆さんも、自分でおやっと思う言葉があったなら、調べることです。調べて納得したらそれで結構ですし、もっと疑問に思ったなら更に調べることです。そういう癖をつけることによって物事が明確に見えて来るし、自分なりの行動はどうすべきかが見える。その後は行動することです。

しか いわ ひやくこう し い もつ そ こと な くんし まな もつ そ みち いた
【七】子夏 曰く、百 工は肆に居て以て其の事を成し、君子は学びて以て其の道を致す。

子夏が言うには、職工は工場で一生懸命努力をすることによって、専門家となる。君主も同じで、一生懸命学んで努力し続けていけば、君主の卵が段々君主になっていくものだ。

レジュメに、「事上磨錬を思い出します」と書きました。一所懸命仕事に取り組みば、当然自分が磨かれて来る。金儲けだけ考えていると、心が傷んでくるし、荒んでくるし、人に対する思いやりが擦り減って来ます。仕事を通じて一所懸命自分を磨くのだと思っていれば、他人に対する思いやりも出てくるし、優しさも生まれてきます。西郷隆盛の敬天愛人は、事上磨錬で進んで行った結果です。最初は、算盤達者で頭が切れて能吏と言われるような人物だったのが、自分を磨こうと思って努力に努力を重ね、自分自身の性格も変えていった。人物を磨いた結果、世に伝わる西郷隆盛になったのだと思います。ですから事上磨錬で仕事を通じて自分を磨く。そうしていくことによって、ビジネスにおいて、利は最終的について来ると感じています。

恒例の質問

では、恒例の質問をお聞きします。もう3月も半ばを過ぎました。今年に入ってどうでしょうか、お考え下さい。

○ 今年に入って、良い日が続いている方

何度も申しますが、客観で見ないことです。自分の主観で、良い日が続いたなと思えば良いのです。

○ 今年に入って、嘘をつかなかった方

皆さん手が挙がりました。たまに、相手のためになる良い嘘があってもよいと存じます。

○ 今年に入って、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

○ 今現在、身体の手入れをよくやっている方

私は朝、だいたい1時間ストレッチをして30分自転車に乗るのですが、今日は自転車だけでした。身体をほぐさないで来たので、道場に入ったら足の裏がつっていたのですが、山崎先生の棒術のおかげでだんだんほぐれました。

齢をとればとるほど、身体の手入れに時間をかけなければいけません。若い時はあえて身体の手入れをしなくても自然とやっていますが、還暦過ぎたら身体の手入れは絶対に必要です。私の実感でいくと5歳刻みで、65歳はもう少し丁寧に手入れをする必要があります。70歳過ぎたら更に手入れをする必要があります。70歳までの手入れは鍛錬も含んでいます。筋トレをするとクレアチニンという数値が上がります。筋トレをすると痛いのですが、痛みがあるということは筋肉に刺激を与えて更に強化しているわけです。筋トレをしても痛くなくなったなら、もうこれは効いていないと思って少し強化すると良いでしょう。一昨日私は74歳になりましたから、今度は75歳以降～80歳に向けてのストレッチに切り換えることに致しました。100歳過ぎても自分の足で歩けることが目標です。

○ 今年自分磨きをどんどんやっている方

○ 昨晚寝る前に明日、又は明日以降のことを考えて、あれが出来て良かったと思って眠れた方

手が挙がる人がだんだん増えて来ました。これを習慣にされると必ず良いことが出て参ります。

コロナはチャンス

残りのお時間で、本日のテーマ「令和3年を考える」を申します。

コロナはもう人間社会に完全に入り込みましたから、共存共栄という恰好になるのだろうと思っています。私は、コロナはチャンスであると思っています。コロナをよく見極めることで一気に利益が拡大していく会社、或いは個人でも相当な上昇氣流に乗る人が生まれると思っていますし、すでに生まれつつあります。一気に上昇氣流に乗る人と、一気に落ちていく人と、二手に分かれると思っています。落ちていく人は、何度も申し上げてい

るように年収 200 万円以下の人で、これから益々増えるでしょう。一気に駆け上るのは、大金持ちに向かっていく方です。ここ 1、2 年の間で、それが明確に出てくると思っています。

本日の紹介書籍は『2049 年「お金」消滅—貨幣なき世界の歩き方』（斉藤賢爾著 中公ラクレ）です。お金の消滅については、前から申し上げています。この間、東京フォーラムに出た時にタクシーに乗りましたら、また状況が少し変わっていました。以前は、カード決済が増えたと申しましたが、今回は座席の目の前に「カードの取り忘れにご注意下さい」と貼ってありました。今は現金で支払う人は少なく、だいたい高齢者だそうです。高齢者になりかけの人がクレジットカードを使い、若い人は皆スマホだそうです。スマホは取り忘れがないけれども、中途半端に高齢の人がカードを忘れるというわけです。私もスーパーで買い物をして、カードを取り忘れしました。結果、警察署に取りに行ったことが 2 回あります。今は、取り忘れないようなシステムになっているようですね。

ということで、どんどん世の中が根っこから変わっています。自分の関係する業界で、根っこから変わるとはどういうことだろう？ とお考えになるとよろしいでしょう。それには、自分の業界だけ見ていたのでは分かりません。他の業界を見ないと、自分の業界はどう変わるのか見えません。冒頭に申し上げた中江藤樹の本を出した出版社は、昔のことをずっと踏襲しているから、変化に気がつかないのです。他の業界を見たら、根っこから変わっていることにはっと気がつくわけです。

お時間になりました。纏めますと、従来型のことを従来通りにやっている人は、真逆さまに落ちていく。他の方法を考える人は上昇気流に乗ります。キーワードは「コロナはチャンス」です。そう思って、コロナを見極め、仕事に取り組んで戴くとよろしいでしょう。